三重県図書館協会報　2016年3月29日発行

協会だより No.67

目次

三重県図書館情報ネットワークシステムと県立図書館ホームページの改善について……1
トピックス～図書館をめぐる話題から……2
平成27年度図書館活性化推進事業の報告……4
研修会参加報告……6
新館案内……8
ブックエンド……8

編集・発行　三重県図書館協会＝津市一身田上津部田1234　三重県立図書館内　電話：(059)233-1181

三重県図書館情報ネットワークシステムと県立図書館ホームページの改善について

三重県立図書館　朝長圭子

1　はじめに

三重県立図書館では、平成28年3月に図書館システム等の更新を行いました。更新中は、県民の皆様、県内図書館の皆様にはご迷惑をおかけしましたが、ご理解いただきありがとうございました。今回の更新では、主に三重県図書館情報ネットワークシステムと県立図書館ホームページの改善を行いました。

2　三重県図書館情報ネットワークシステムの改善について

今回、三重県図書館情報ネットワークシステムにおいて大きな変更点があります。

今回の更新では、国立国会図書館が提唱する全国標準のシステム連携の仕組を採用しました。この仕組は毎日、連携先のシステムから情報を収集するもので、国立国会図書館と都道府県立図書館の間で導入されつつあります。県立図書館と県内図書館との間で採用するのは三重県が全国初となります。

この連携による県内図書館のデータ収集が進めば、県内の図書館すべての検索が、1館の検索と変わらない機能、速度で行えるようになります。これにより、県民の皆様、県内の図書館職員の皆様に、より便利なサービスを提供することができると考えています。

この仕組を実現するには、県内図書館のご理解とご協力が必要です。システム更新を控えた県内図書館の皆様には、県立図書館から、国会図書館準拠の「三重県図書館システム連携ガイドライン」をもとに仕様等について説明いたします。ご検討よろしくお願いいたします。

3　県立図書館ホームページの改善

ホームページのリニューアルは、図書館に関心がない方にも図書館を知っていただけるよう、わかりやすさと情報発信に重点を置きました。ポイントは次の3つです。

①ホームページをわかりやすく

図書館をはじめて利用する方に向け、調べもの相談やデータベースなど、図書館の便利なサービスをわかりやすく紹介しています。また、本の取り寄せについて図入りで案内するとともに、県内図書館の検索（横断検索）結果のページからもそのページに誘導しています。

他には、利用者から要望の多かった、本の表紙の表示を実現させました。さらに、トップページに複数あった県立図書館と県内図書館の検索の入口をひとつにまとめました。

②三重県関係の資料の紹介

県立図書館で所蔵する近世の貴重書を中心にデジタル化したデジタルライブラリーをより活用していただけるよう、画像入りで紹介しています。また、文学コーナーのページで紹介していた三重県ゆかりの作家や作品に、新たに作家の写真を追加するなどし、より注目していただけるようにしました。

③市町立図書館等の情報発信

県内の市町立図書館等にご協力いただき、県民の皆様に、地域の特性を反映した個性豊かな市町立図書館・図書室を情報を届け、より多くの方に足を運んでいただければと思います。

また、各図書館のイベント情報、休館情報のページも設けました。PR等の場のひとつとしてお使い下さい。

4　さいごに

今回は、図書館を知らない方にもわかりやすくという点を念頭に置き改善を進めましたが、これで完成ではありません。システム稼働後も、引き続き使いやすいものを目指していきます。会員の皆様においては、ホームページや検索を実際に使っていただき、ぜひ県立図書館にご意見をいただければと思います。

トピックス
～図書館をめぐる話題から～

課題解決型図書館サービス推進事業について

紀宝町立鵜殿図書館
岸　葉子

きっかけは糸賀先生の一言でした。数年前のとあるフォーラム会場でのことです。慶応大学教授の糸賀先生が「こんなにいろいろ補助金があるのに申請が非常に少ない。本当は図書館の職員は仕事したくないんじゃないか。」と冗談めかしておっしゃいました。

この言葉を聞いた瞬間、ドキッ！としました。確かに私の心のどこかに「これ以上仕事を増やしたくない」というブレーキがあるのを感じていたからです。何とかブレーキを緩めたいと模索している時、突然、地方創生交付金の話があり思わず飛びつきました。しかし当初は誰に聞いてもどこに聞いても「図書館は該当しない」という話でした。それで何度か挫折しそうになったのですが「図書館抜きで地方創生なんてありえない」と思い切って勝負に出てみたところ多少の紆余曲折がありましたが、ほぼ希望どおり「課題解決型図書館サービス推進事業」として始めることができたのです。実際の事業内容につきましては大したことはしていません。オンラインデータベースの「日経テレコン21」と「ルーラル電子図書館」を導入し、その活用講座を開催、そして館内に「ビジネス情報コーナー」を設置した、ただそれだけです。しかし一番の成果は、これらの事業をすすめる中で様々な関係機関と連携し、いろいろな人とのご縁をいただけたことです。合計３回開催したデータベース活用講座は大変好評で、それをきっかけに今まで図書館に来館することがなかった方が来られるようになりました。また、「ビジネス情報コーナー」の本は意外に女性にも人気があったので、女性向きの起業や手書きＰＯＰ、ビジネスマナーの本などを入れてみたところ予想以上に多く利用され、うれしい驚きでした。今後も地域の課題解決に取り組むことにより、少しでも未来に希望が持てるよう、微力ながらお役に立ちたいと願っています。

ビジネス情報コーナー

ルーラル電子図書館活用講座

三重県立看護大学学術機関リポジトリについて

三重県立看護大学メディアコミュニケーションセンター附属図書館
齋藤　真

大学や研究機関が所属研究者の知的生産物を電子的に収集、蓄積し、インターネット上で公開するシステムを学術機関リポジトリと言います。学術機関リポジトリを設置する目的は、研究成果を自主的に保存、公開することでオープンアクセス化に寄与すること、また学位論文や研究報告書など出版されないものを保存していくことの２点が挙げられます。

学術論文のオープンアクセス化のメリットは、研究者が学術情報の入手が容易になることで研究の発展につながります。また研究者自身が自らの研究成果を情報発信することで論文の被引用件数が増加するため、自身にもメリットが大きいことです。さらに学位規則の改正により、博士論文もインターネットによって公表

されることになりました。

こうしたオープンアクセス化の波に乗り、本学では２０１４年度より機関リポジトリの準備に取りかかりました。本学のリポジトリは国立情報学研究所（NII）が提供する共用リポジトリサービス（JAIRO Cloud）を利用し、２０１５年５月から「三重県立看護大学紀要」を公開しました。「三重県立看護大学紀要」は、１９９７年の開学以来18巻が発行され、収録されている本学教員の１６３本の研究論文が全文閲覧可能となっています。従来、本学紀要は紙媒体を各大学や試験研究機関に郵送していましたが、機関リポジトリの利用によって論文の閲覧、ダウンロードが容易になったことに加えて環境保護にも大きく貢献することが可能となりました。

18歳人口の激減とともに全国の大学が看護系の学部、学科を新増設している昨今、高等教育機関の質保証をするため、教員の研究は重要な評価指標となっています。三重県立看護大学では機関リポジトリを利用して教員の研究成果を積極的に公開し、質の高い教育の提供を実践しています。

三重県立看護大学学術機関リポジトリURL:
https://mcn.repo.nii.ac.jp/

三重県図書館改革実行計画「どこにも２つの図書館」について

三重県立図書館　中川清裕

三重県立図書館は、平成23年４月に策定した改革実行計画「明日の県立図書館」に続く取組方針として、「どこにも2つの図書館」をとりまとめました。

当館は「明日の県立図書館」を策定後、Library of Year 2012の優秀賞を受賞するなど、多くの評価をいただくことができました。このことも踏まえ、新たな取組方針では「明日の県立図書館」の基本的な考え方を継続し、全県域・全関心層へのサービスと先進的なサービスという「2つの約束」を実現するために、「3つの活動」に最優先で取り組むとともに、「5つの方策」に留意していくこととしています。

タイトルにある「2つの図書館」とは県民の皆さんにとって身近な市町立図書館や学校・大学などの図書館と、それを後ろで支える県立図書館のことをいいます。すべての県民がよりよい図書館サービスを等しく利用できるよう、県立図書館は、県内の図書館と連携しながら、三重県全体の図書館サービスの向上に努めていきたいという思いから、このようなタイトルとしました。

取組の進行管理も、先の方針から継続して計画、実行、評価、改善といういわゆるPDCAのサイクルを応用しながら、アクションの進捗をチェックしています。年度当初に1年間のアクションプログラムを作成・公表し、外部アドバイザーも交えた毎月の館内での進行管理会議で職員間の情報共有を図るほか、諮問機関である三重県立図書館協議会を外部評価の場として、3か月に一度、全てのアクションについて進捗をご報告し、ご意見をいただいています。

実際の取組においては、特に「行政課題の解決」「学校図書館との連携」「県内図書館の情報収集」「利用困難者へのサービス」「資料のデジタル化」「書庫の収容能力の拡大」の6点を重点事項とし、取組を進めています。どちらかというと地味な取組が多い中で、県の少子対策課との連携により、夜の図書館で本を介して人と人との出逢いを作ろうと開催した「ナイトライブラリー」が、県の各部局の優良事例を対象にしたMIE職員力アワードの今年度のグランプリを受賞しました。これは人と人との交流の場としての図書館の機能を、県の重要課題の解決と結び付けようとした実験的な取組です。

県立図書館は、今後も新たな取組方針を通じて、県内の図書館との連携を深めるのはもちろんのこと、実験的な取組にも挑戦し、そのノウハウを県内の図書館に提供することにより県民の利用できる図書館サービスを充実させていきたいと考えています。

平成27年度 図書館活性化推進事業のご報告

平成27年度の当協会による図書館活性化推進事業助成では、5館が助成の対象となりました。それぞれの館から、事業のご報告をいただきました。

①コンサート・ワークショップを開催して

鈴鹿大学短期大学部附属図書館　中山　真

鈴鹿大学短期大学部図書館では、本館と地域の人々との交流を深め、気軽な利用の促進を図ることを目的に、平成27年12月12日に「音で楽しむ物語コンサート&すずたんワークショップ」を開催しました。午前は、音楽療法と吹奏楽によるコンサートを行いました。鈴鹿大学吹奏楽部はサウンドオブミュージックの読み聞かせと演奏を行いました。続いては、音楽療法士の山本佳子先生、吉田豊先生による、参加者も巻き込んでのコンサート。山本先生は、絵本「おへその穴」を歌いながらの読み聞かせをし、やさしい音楽に癒されました。吉田先生は、ギターやさまざまな打楽器でセッションを行い、普段は静かな図書館に音楽と楽しい歓声が響き渡りました。午後は本学各専攻主催による、ワークショップが行われました。缶バッジやレジンのキーホルダー、食育ランチョンマット作りを、親子連れのみなさんと楽しく行いました。今後も大学附属の図書館という特徴を生かした事業を展開して参ります。

②図書館まつりのご報告

伊勢市立小俣図書館　地迫貴裕

伊勢市立小俣図書館では、平成27年11月に図書館まつりを開催しました。例年行っている映画上映会、ボランティアおはなし会の他に、伊勢に縁のある絵本作家の池田あきこさんをお招きして講演会を開催しました。当日は県内様々な地域からたくさんの方に参加いただきました。「好きなことを仕事にする」というテーマで、会社の立上げから、絵本作家としてのスタートについて、映像を交えながらお話しいただきました。仕事というテーマでの講演会は初めてだったとのことで、参加された方にも大変貴重な機会になったかと思います。上映会・おはなし会にもたくさんの方に参加していただくことが出来ました。

今回の一連の行事は、今後の図書館行事への可能性を広げるものになったと思います。今後も様々な情報発信を行い、図書館活動を続けていきたいと思います。

③図書館が伝える地域情報　はまぐり・しじみを育む桑名の漁業

桑名市立中央図書館　松永悦子

はまぐり・しじみは、桑名市が誇る「桑名ブランド」のひとつです。味はもちろん、誇るべきは、450年以上前から営まれてきた漁を、厳格な資源管理のもと、未来へつなぐために尽力する漁師の方々の取組です。本事業では、地域の宝となる桑名の漁業に光を当て、活躍する漁師の方々や関係部署と連携し、「魅〈見〉せる」（パネル）「集う〈出会う〉」（トーク）、「まとめる」（調べ学習用冊子）、「調べる」（漁業コーナー）をテーマに、ふるさとに愛着を持ってもらうための情報発信を行いました。

期せずして、本事業は本年4月桑名市にて開催される「2016年ジュニア・サミットin三重」の関連事業のひとつとして位置づけられ、現役漁師の方々をお招きして開催したトークイベントや、図書館が作成した調べ学習用冊子の刊行により、様々な世代が『次世代につなぐ地球~環境と持続可能な社会』について考え、地域の宝を見つ

おす機会となりました。

図書館が発掘・発信する地域情報を通して次代を担う子ども達が地域活動の「応援団」になってくれるよう、今後も地域との連携を密にし、多様な視点からそのきっかけづくりを提案していきます。

トークイベント

冊子

④「わくわく図書館・夏休みを図書館からはじめよう！」を開催して

鈴鹿市立図書館　藤田かをり

鈴鹿市立図書館では、昨年度好評だった子ども向け啓発事業をパワーアップして、図書館ボランティアとの協働による「わくわく図書館・夏休みを図書館からはじめよう！」を開催しました。図書館ロビーで読書啓発展示を8日間行い、その期間中に関連する親子向けワークショップも開催しました。ロビーでの展示はアイデア満載で、くじを引いて当てたテーマに関するおすすめ本を紹介したり、お化けカルタや手作りののぞき箱に、子ども達は興味津々でした。その他にも食べ物の出てくる絵本の紹介と内容にちなんだレシピの配布や、かっこいい・すてきな本の表紙コンテストでは準備していた投票用シールや本の紹介プリントも数日で無くなるほど大盛況でした。

ボランティアの皆さんには、展示準備からワークショップまでかなりの労力を費やしていただきましたが、職員だけでは思いつかないすばらしい工夫のおかげで、子どもたちは図書館が楽しいところだと気づいてくれたことでしょう。今後も様々な分野でボランティアの皆さんとの協働・連携による図書館の活性化を、さらに進めたいと考えています。

⑤出前図書カフェを始めました！

みなみいせ図書室　平田　脩

私たちは、平成26年3月末に126年の歴史に幕を閉じた穂原小学校区内の集落を訪ねて、昨年10月からお年寄り対象の「出前図書カフェ」を開いていますが、2月の活動の一端をお知らせいたします。

2月初旬の昼下がり、内瀬地区の古民家、Uさん宅でカフェを開かせていただきました。当初、Uさんのおはからいで、囲炉裏を囲んで、カフェを開く予定でしたが、参加者が10名を超えたので、別室のお雛さんを飾ってある部屋で行いました。

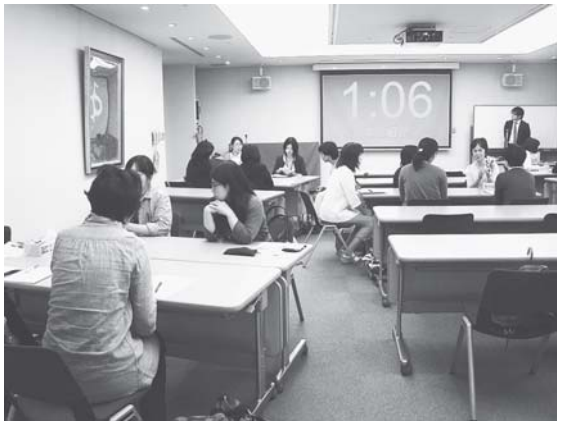
2月中旬には、伊勢路地区の集会所で開催しました。急な開催にもかかわらず、17名も参加され、楽しいひとときになりました。

いずれの図書カフェの内容も以下のようなものです。4～5種類の飲み物と電気ポット、容器などカフェ道具一式を携え、まずカフェを開きます。皆さんがひととき歓談された後、司書が絵本を2～3冊読み、小生が日野原重明さんの本の抜粋のテキストを配り、読み、解説するという趣向のものです。参加者には好評で、次回開催を楽しみにしていただいています。図書室の営業活動以外に、限界集落化する地域の活性化の拠点づくりとして、今後も続けていく予定です。

研修会の報告

○図書館職員基礎講座

比較的経験の浅い職員向けの研修である基礎講座を、7月3日に津市の三重県文化会館で開催しました。「ビブリオバトルを学ぶ」をテーマに、皇學館大学文学部の岡野裕行氏を講師にお招きしました。この研修には、23名のご参加がありました。参加された方の中から、多気町立勢和図書館の奥野実希さんにご報告をいただきました。



図書館職員基礎講座に参加して

多気町立勢和図書館　奥野実希

今回、岡野先生のビブリオバトルについての講義を拝聴致しましたので、そのご報告をさせていただきます。

ビブリオバトルは本を紹介し合うコミュニケーションゲームです。ルールですが、発表者は自分が読んで面白いと思った本を持参し、5分間でその本を紹介します。それぞれの発表の後には参加者全員で2～3分間のディスカッションを行い、全ての発表終了後に「どの本が最も読みたくなったか」を評価基準に投票を行います。そして最多票を集めたものをチャンプ本とします。

ビブリオバトルで発表者は吟味して本を選びます。そのため参加者は本の内容を全員で共有できるほか、良書と出会う機会を得られます。発表者としても、どうすれば相手に伝わる紹介ができるかを考えて発表に臨むため、プレゼンテーション能力の向上につながります。さらに参加者は人を通して本を、本を通して人を知ることができるので、参加者同士の理解につながり、コミュニティ形成の促進力にもなります。

公共図書館でビブリオバトルを行う際、考慮すべき点も教えていただきました。まず検討すべき点は、どういったコミュニティを作りたいか、そのコミュニティにとってどのようは規模が適切かということです。それを明確にした上で司会・進行役の決定、イベント全体の時間設定・バトルの実施形態のほか、必要な道具の準備等を進めていきます。参加者全員が楽しめ、継続的なイベントとして定着させるためには、主催する図書館側が明確な目的を持って、その運営に携わっていくことが重要だということでした。

今回の研修で学んだことを活かし、みなさんが気軽に楽しめ、それが交流の場につながっていくようなビブリオバトルを、図書館でも導入できればと思います。

○図書館職員専門講座

ある程度の経験年数を経た職員向けの研修である専門講座を、1月15日に津市の三重県生涯学習センターで開催しました。「資料の補修と保存環境」をテーマに、日本図書館協会の眞野節雄氏を講師にお招きしました。この研修には27名のご参加がありました。参加された方の中から、皇學館大学附属図書館の井上真美さんにご報告をいただきました。

図書館職員専門講座に参加して

皇學館大学附属図書館　井上真美

今回の研修では、資料の保存についての基本的な考え方を再確認できたのが、大きな収穫でした。美術館や博物館が行うような、全ての資料を一律に保管するための保存ではなく、「利用のための保存を考える」「利用には、今の利用と未来の利用

がある」という図書館のための考え方です。

私が勤務する皇學館大学附属図書館には、時代を経て残され継承されてきた、貴重な歴史的な資料が多く保存されています。また、刊行された時代は新しいけれど、学生や教員の学修や研究に必要な、後世に残すべき資料も多くあります。

これらの利用や保存を考えたとき、講師の眞野氏の言われた、「図書館の資料は、全てを等しく保存するわけではない。短期的な利用を目的とした資料もあれば、後世に伝えていくべき資料もある。そうであれば、資料に応じて、修理や保存も自ずと違ってくる。」という考え方は、非常に納得でき、現実的です。

また、「本当に貴重な資料ほど、元に戻せるように。」という考え方も、未来の利用を考えた時、大切な考え方だと納得できます。

「やわらかく、やさしい修理」という、眞野氏の言葉が印象的でした。

図書館で日々仕事をしていると、目の前の利用者の利用を優先しがちですが、遠い未来の利用者に、より良い状態で資料を残していくことも大切な図書館の仕事であると再確認できました。

○視察研修

先進的な取組を行っている図書館を視察し、見識を深める視察研修を、2月25日に実施しました。愛知県の椙山女学園大学中央図書館とおおぶ文化交流の杜図書館を視察したこの研修には、25名のご参加をいただきました。参加された方の中から、四日市市立図書館の村上周作さんにご報告をいただきました。

有意義な視察研修、ぜひご参加を

四日市市立図書館　村上周作

私は、図書館職員一年生です。実際に他館を見ることも、自館を知ることにつながると思い、視察研修に参加しました。

施設改修したばかりの「椙山女学園大学中央図書館」では、グループで話し合いのできるテーブル席が会話エリアの3フロアにいくつもありました。学生が思い思いに利用でき、評判も良いようです。司書からは、学習プログラム等を用意し、図書館利用につなげているとのことです。

また、移転新築した「おおぶ文化交流の杜図書館」では、自動貸出機や自動予約棚が便利で利用率が9割もあり、カウンター業務が随分と軽減されたとのことです。設備費だけで約1億円の自動書庫（23万冊）もあり、90秒で請求本の入ったコンテナがカウンターに届きます。

新しい図書館を見学すると、「今の自館では無理・・・。」と思いがちです。でも、業務に向き合う姿勢ができるばかりか、きっと自館に役立つこともあるはずです。図書館の宝は職員ですから。

限られた職員数で日常業務に追われてばかりですが、機会があれば、各種研修に参加することが大切であると改めて思う研修でした。

おおぶ文化交流の杜図書館

椙山女学園大学中央図書館

新館案内

明日へ繋ぐプチリニューアル

鈴鹿市立図書館　溝口絢子

昨今、いずれの図書館でも懸案であろうが、多聞に洩れず、利用者と貸出冊数の減少は当館においても一番の課題である。今後の図書館の活性化のために、どのような取組が功を奏すのか、模索の中、今年度実施した様々な改善の中から3つご紹介したい。

1．児童閲覧室

決して大規模なことではないが、児童閲覧室の棚の向きを変えた。カウンターから見て、横向きに並んでいた書架を、縦に並び替えたことで、絵本を探す可愛らしい小さな来館者に対し、職員の目配りがよく行き届くようになった。また、パッと見には分かりにくい変更であるが、絵本の並べ方を、出版社順から、著者順（50音）に変えたところ、絵本が探しやすくなったと大いに好評である。絵本の出版者より作者を目指して絵本を探しに来られる利用者が大半であり、利用者の立場に立った改善が、安全性と便利性を向上させることとなった。

2．雑誌と新聞スペース

これまでは雑誌コーナーと新聞閲覧スペースが1階の同一エリアであったため、両者の空間利用の混在化・動線の乱れなどから不満の声をいただいていた。そこで、年に数回しか利用申請がなく、もったいない空間となっていた2階会議室を新聞閲覧室に模様替えしたところ、新聞・雑誌いずれの利用者にも評判が良い。実のところ新聞閲覧利用者も、紙面をめくる音や、机上を広く使うことで周りを気にし、居心地の悪さを感じていたのだと思う。と同時に、広がった雑誌コーナーでは、雑誌を手に取りやすくなり、ゆっくりと閲覧できるようになった。まさにWIN-WINの模様替えではないだろうか。

3．中高生の動向

中高生の来館目的は、専ら学習室利用である。児童と大人の中間層、いわゆるティーンズの閲覧室離れに着目し、その居場所を閲覧室内に確保すべく、ティーンズ向けの本を集めたコーナーやイベントの告知スペース、自由な思いを書き込める掲示板などを設置、この試みは、ティーンズの興味を読書活動へも繋げるものと期待している。

今回のリニューアルは、必ず明日・明後日・来月・来年と、未来へ繋がる取組であると信じている。日々の小さな「気づき」から生まれる工夫と改善が、大規模な施設改修（その予定はないが）をも凌ぐ力となるよう、今後も継続して様々な挑戦をしていきたい。

ブックエンド

『謎とき本能寺の変』

藤田達生／著
講談社

三重大学附属図書館
柴田佳寿江

本書では、明智光秀がどのように追い詰められていき、織田信長に背いて本能寺の変をおこしたのか、その流れが史料などに基づいて解き明かされています。

信長の四国政策の転換によって光秀の影響力が低下したこと、信長の領地政策により、国替を繰り返すことに不満持ったことなど、背景が丁寧に述べられています。

さらに光秀の背後にいる黒幕の存在にも迫っており、ドラマなどで語られているものとは異なった歴史の姿を見ることが出来る一冊です。